

多賀谷家菩提寺 **大蓮院専教寺**  
 福井県あわら市柿原41-14 TEL.0776-73-0424



当寺は天安二戊寅年(858年)、空海(弘法大師)の直弟子である空量が草創したものです。空量は行脚中、この地に靈気を感じ踏み入り当地を開いて一字を建立しました。その頃、この地には柿の林があり、大きな蓮池があったので、「柿原」と呼ばれ、寺号も「大蓮院」と名付けられました。空量和尚の後、密源が継ぎ、檀家800余りの大寺に栄えました。

1462年、21代傳鎮和尚の時に浄土真宗に改宗しました。寺号も大蓮院専教寺と改められました。

28代第7世の住職は、多賀谷左近三経の次弟の釋了西法師でした。三経公亡き後に多賀谷家中で兵乱が起き、300人の檀家を引連れて加勢しましたが落城、敗退して加賀へ逃亡しました。そのため、寺は荒れてしまいましたが、20年後に一子了光を連れて帰山し、寺の再建を行いました。そして、多賀谷家の菩提を弔いました。



本堂裏の六地藏



**多賀谷左近三経公墓所へのアクセス**

JR芦原温泉駅から [タクシーで5分][徒歩40分]  
 北陸自動車道 金津インターから [車で10分]

**あわら市内観光のお問い合わせは**

芦原温泉駅観光センター 0776-73-2290  
 一般社団法人あわら市観光協会 0776-78-6767

あわら市指定史跡

**多賀谷左近三経公墓所**



**多賀谷左近三経公奉賛会**

事務局/福井県あわら市柿原42-26

TEL.090-4069-0126



# 多賀谷左近三経 たがやさこんみつね

1601年、関ヶ原の戦いでの勝利に貢献した褒賞として、結城秀康(徳川家康の次男:結城10万石)は越前北ノ庄68万石に国替えとなりました。中世以来、結城の地に密着し結城家を支えてきた家臣達は、それぞれ期待と不安、故郷との切ない別れなどを胸に抱え、気候・風土・人情・言葉の異なる新たな地、越前に移って来ました。多賀谷左近三経も、その家臣(家老)の一人でした。



結城秀康公像

多賀谷氏は元々、結城氏に仕え、三経は幼名を虎千代と言いました。虎千代の父・重経は下妻城主で関の庄33郷・6万石を領していました。石田三成に名付け親を頼み、三成の三と父の経を一字ずつもらい、三経と名乗ることになりました。多賀谷左近は柿原十楽の台地に館を築き、家臣200余戸を引連れて、館の付近に刀鍛冶、弓師、町人等を集めて柿原郷の城下町を造り、国境警護にあたりました。城下町は大いに栄え柿原郷千戸と称されていました。橋屋瓜谷の4反6畝の大きな貯水池、滝の「ふたまたつつみ」や樋山の「大谷溜池」も左近の普請であると伝えられています。その治世は、善政の名高き7年でありました。

三経は慶長12年(1607年)4月に病没した主君・秀康を

追うように、7月21日に41歳で没し、火葬の上、柿原の墓堂にある宝篋印塔に納骨されました。菩提寺は柿原の専教寺です。戒名は「黔宗祥堅居士(ケンソウショウケンゴジ)」,その後、末孫の虎千代が五輪塔を建立しました。多賀谷家の跡目は、大阪夏の陣で活躍した子の泰経までで、その子の相続は許されず、柿原館は2代で廃止されました。

昭和23年の福井大地震で倒壊した墓所は、昭和63年から当時の金津町教育委員会によって修復作業が進められ、平成3年に現在の墓所が完成しました。当時、土の中から骨壺が発見され、その骨は富山医科薬科大学で鑑定を受け、三経のものと確認されました。菩提寺の専教寺で厳粛に法要が営まれ、改めて納骨されました。



福井城址

